

# 全 仏



No. 396

1994. 3

## 財)全日本仏教会新年懇親会



壇上に揃った新旧会長・副会長  
(関連記事 2～3面)



財団  
法人

全日本仏教会

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

会長に中村康隆浄土門主

理事長に伊藤治雄師

# 理事会・評議会開催



京都グランドホテルで開かれた理事会・評議員会

本会の理事会・評議員会が、去る一月二十  
六日午後二時から、京都グランド・ホテルで  
開催された。会議では、任期満了に伴う会  
長・副会長の推戴、理事長をはじめとする役  
員の選出、さらに平成六年度の事業計画案や  
歳入・歳出予算案等が審議された。

## 評議員会

議長に斉藤价洲師、議事録署名人に新井智  
清、濱田義道の両師を選んで、議事に入っ  
た。

議案第一号「任期満了に伴う理事及び監事  
選出の件」

慣例に則り、理事・監事の選考委員会を設  
け、別室で協議の結果、別記の理事及び監事  
を選出した。

議案第二号「任期満了に伴う会長及び副会  
長推戴の件」

斉藤議長より上程。川島総務部長が昨年十  
一月十九日に開催された「第二十一期会長・  
副会長推戴委員会」の結果を報告。これに基  
づき、別記の通り、会長・副会長の推戴を議  
決した。

議案第三号「平成六年度事業計画（案）に  
ついて意見を求める件」

斉藤議長より上程。川島総務部長が平成六  
年度事業計画案を朗読。原案賛成の意見が表

明された。

**議案第四号**「平成六年度歳入歳出予算(案)について意見を求める件」

斎藤議長より上程。斎藤財務部長が、予算案の詳細を説明。質疑応答の後、原案賛成の意見が表明された。

**議案第五号**「ルンビニー園マヤ堂修復事業の今後の進め方について意見を求める件」

斎藤議長より上程。木内国際文化部長がこれまでの経緯の概略を説明。つづいて考古学者・上坂悟氏が、考古学調査の現況を、スライドを使って詳細に報告。質疑応答の後、原案賛成の意見が表明された。

## 理事会

柳下隆侃師を仮議長に、議事録署名人に杉谷義純、増田貞圓の両師を選んで議事に入った。

**議案第一号**「任期満了に伴う理事長及び常務理事選出の件」

曹洞宗の伊藤治雄師を理事長に選出。伊藤理事長を議長に、別記の常務理事を選出した。

**議案第二号**「任期満了に伴う会長及び副会長推戴の件」

伊藤議長より上程。川島総務部長が昨年十一月十九日に開催された「第二十一期会長・副会長推戴委員会」の結果を報告。これに基づき、別記の通り、会長・副会長の推戴を議

決した。

**議案第三号**「平成六年度事業計画(案)について承認を求める件」

伊藤議長より上程。川島総務部長が平成六年度事業計画案を朗読。原案通り承認された。

**議案第四号**「平成六年度歳入歳出予算(案)について承認を求める件」

伊藤議長より上程。斎藤財務部長が、予算案の詳細を説明。質疑応答の後、原案通り承認された。

**議案第五号**「ルンビニー園マヤ堂修復事業の今後の進め方について了承を求める件」

伊藤議長より上程。木内国際文化部長がこれまでの経緯の概略を説明。つづいて考古学



講演するサキヤ教授

者・上坂悟氏が、考古学調査の現況を、スライドを使って詳細に報告。質疑応答の後、原案通り承認された。

## 報告事項

議案に関する審議が終了した後、理事会・評議員会に共通する報告が、事務総局の各部長より行われた。

## 記念講演

理事会・評議員会閉会后、午後四時半から「マヤ堂修復事業の現況と展望」をテーマにルンビニー開発トラスト(LDT)副理事長スーリヤ・サキヤ教授が、記念講演を行った。サキヤ教授は、マヤ堂修復事業の今後の進め方について協議するため、ネパールから来日したもの。(関連記事六〇七頁)

## 懇親会

午後六時から、同じ京都グランド・ホテルで恒例の新年懇親会が開催された。中村康隆会長、山田恵諦前会長、伊藤治雄理事長が次々に挨拶、つづいて来賓として出席したルンビニー開発トラスト副理事長スーリヤ・サキヤ教授が祝辞を述べた後、高井隆秀副会長の発声で乾杯を行った。

その後、しばしの間、二百人を超える出席者による、和やかな懇談がつづいた。



- 山本 学人 (顕本法華宗)
- 大谷 博通 (新義真言宗)
- 小林 慶存 (天台寺門宗)
- 石原 賢成 (真宗木辺派)
- 丸山 秀彦 (真言宗国分寺派)
- 五條 覚照 (金峯山修験本宗)
- 新藤 晋海 (華嚴宗)
- 川村 俊朝 (真言宗泉涌寺派)
- 森谷 英俊 (法相宗)
- 大野 玄妙 (聖徳宗)
- 小池 弘三 (真言宗須磨寺派)
- 平田 忠義 (妙見宗)
- 国定 淨運 (真言三寶宗)
- 池田 光輝 (真言宗中山寺派)
- 小滝 了信 (北海道仏教会連盟)
- 浅野 俊道 (同)
- 最上 知良 (青森県仏教会)
- 工藤 道夫 (岩手県仏教会)
- 轟 光順 (群馬県仏教会連盟)
- 高木 敏了 (栃木県仏教会)
- 中村 純崇 (茨城県仏教会)
- 河野 亮永 (埼玉県佛教会)
- 酒井 文雄 (同)
- 山田 勝義 (千葉県仏教会)
- 村松 正隆 (同)
- 白川 謙敬 (東京都仏教連合会)
- 菊地 昌雄 (同)
- 加藤 隆宣 (同)
- 柳下 隆侃 (神奈川県仏教会)
- 本間 孝康 (同)
- 和田 大雅 (同)
- 田宮 黎友 (新潟県仏教会)
- 波佐場 薫 (石川県仏教会)
- 藤巻 賢昭 (山梨県仏教会)
- 海野 淨雄 (長野県仏教会)
- 加納 博司 (岐阜県仏教会)
- 藤 政昭 (同)
- 伊村 隆恵 (静岡県仏教会)
- 濱田 義道 (同)
- 江川 辰三 (愛知県仏教会)
- 牧 忍教 (同)
- 岩田 文有 (同)
- 吉水 哲応 (滋賀県仏教会)
- 長澤 香静 (京都仏教会)
- 中山 知見 (京都府仏教連合会)
- 増田 貞圓 (大阪府仏教会)
- 井桁 雄弘 (同)
- ▽高見 寛康 (兵庫県仏教会)
- 高橋 恵俊 (同)
- 垣内 浩龍 (和歌山県仏教会)
- 清田 寂円 (岡山県仏教会)
- 柿本 知道 (鳥取県仏教連合会)
- 綾澤 光朗 (香川県仏教会)
- 大西 智城 (徳島県仏教会)
- 高木 英教 (愛媛県仏教会)
- 島田 定信 (高知県仏教会)
- 黒田 英之 (福岡県仏教連合会)
- 弘中 誠之 (宮崎県仏教連合会)
- 友松 諦道 (真理舎)
- 島田喜久子 (全日本仏教婦人連盟)
- 鎌原 泰彦 (全日本仏教青年会)
- 中山 静麿 (日本仏教鑽仰会)
- 上村 映雄 (日本仏教保育協会)
- 長田 順海 (国際仏教興隆協会)
- 青木 新 (仏教振興財団)
- 麻布 真海 (東京ブテイストクラブ)
- 沼田 恵範 (仏教伝道協会)
- 秋場 善彌 (国柱会)

# 花まつりポスター

\* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

## 花まつり



|| 広く統一してご利用下さい ||

花まつりの行事は年々盛大に行なわれていますが、さらに全国的に浸透せしめるため、全日本仏教会では写真のような統一したポスターを作成、広くご利用頂けるよう頒布しております。

明るい春の野に静かに立って、天と地をさすお釈迦さまの姿は、見る人の心に安らぎを与えることと思います。

下記の要領にて頒布いたしますので各県仏、郡市仏、各寺院、幼稚園、保育園などで広くご利用下さい。

◎ サイズ 七四センチ×五二センチ

◎ 定価 一枚 百円

送料実費

◎ 申込先 東京都港区芝公園四一七

一四 全日本仏教会

※送付に時間のかかることもありま  
すので、お早めにお申込み下さい。毎  
年ギリギリの申込みで四月八日に間に  
合わないことがありますので……。

# マヤ堂修復事業の現況と展望

ルンビニー開発トラスト  
副 理 事 長

スーリヤ・サキヤ

去る一月二十六日、京都グランドホテルで、本会の理事・評議員会が開催された。会議に引き続いて午後四時半から、ルンビニー園マヤ堂修復事業に関する講演会が行われた。

ルンビニー開発トラスト（略称LDT）副理事長のスーリヤ・サキヤ教授は「マヤ堂修復事業の現況と展望」のテーマで、要旨次のような講演を行った。

※ ※ ※ ※ ※

ルンビニーを開発しようという考えは、一九五四年ビルマのラングーンで開催された第三回WFB世界仏教徒会議ビルマ大会に於いて、第四回大会がネパールで開催されること、が全会一致で承認されたことを受けて、WFBネパール支部のネパール仏教会によって最初に提唱されました。そして、一九五五年ネパール仏教会の要請によって、仏教僧院、宿坊、及びバイラワからルンビニーに至る仮設道路がネパール政府によって建設されました。これは、第四回WFB世界仏教徒会議ネ

パール大会の代表団のメンバーをルンビニーへ案内することが計画されたからであります。

一九六七年には、当時の国連事務総長で今は亡きウ・タント氏がカトマンズを訪問しました。ウ・タント氏はその時ルンビニー訪問を希望し、その希望に沿って然るべき手配がなされました。ウ・タント氏はルンビニー訪問後カトマンズへ戻ってから、マヘンドラ国王に謁見しました。国王もまたルンビニー園の開発に関心を持っていたわけでございます。ウ・タント氏はルンビニー園が釈尊御生誕の聖地として開発されなければならないという意見を述べました。そしてマヘンドラ国王との協議の結果、国際連合の関係機関から丹下健三教授にルンビニー開発のマスタープランの作成が依頼されました。

丹下教授はルンビニーを仏教徒巡礼の最も重要なセンターとすべく、アシヨカ王柱のある南部の考古学上の作業、そして中心部のマヤ堂を十分に考慮して、一九七八年にマス

タープランを完成しました。この聖域の傍らには国際的な僧院地区を設け、さまざまな仏教の宗派と世界の国々を代表する僧院を建てるようになっていますが、これは世界のいろいろな仏教徒社会の中に、一つの共通の国際的な仏教徒の連帯に帰属しているという意識を起すためであります。

ルンビニーは釈尊の御生誕地であり、当然のことながら、文化的側面を持っています。この観点から、丹下教授は新しいルンビニー村である北部を学者や観光客向けの文化地帯として計画し、病院、学校、図書館、博物館、ホテル、観光名所、瞑想の場所等を盛り込んでいます。一九七八年のマスタープラン完成以来、日本の仏教徒、特に全日本仏教会がルンビニー園開発に多大な関心を持ち続けていることは喜ばしい限りでございます。

LDT事務所の記録によれば、僧侶と一般市民の双方から成る数多くの日本の仏教徒がルンビニー園を訪問して、その開発に最大限の協力をしてきております。

アシヨカ王柱のあるマヤ堂はマスタープランの中心をなすものであります。アシヨカ王は釈尊が宣言した、世界平和への宗教的勝利の行進を行うことによって、ご自身の即位二十周年を祝おうと、紀元前二四九年にルンビニーを訪れたと云われています。そしてルン

ビニー訪問のしるしとしてアショカ王は石柱を据え付けたわけです。その石柱には、ブラフミー文字とパーリー語で、「この地、ルンビニー村において、まこと釈尊誕生せり」とはつきり刻まれました。

アショカ王柱はネパールのJ・B・ラナ將軍および当時の英領インド政府のドイツ人考古学者フューラー博士によって一八九六年に発見されました。アショカ王柱とマヤ堂を持つ聖域なくしては、ルンビニーの存在意義はありません。

丹下教授はマスタープラン策定にあたって、この聖域を特に重視したように思われます。しかし、マヤ堂の基壇の中心にある現在の建造物は、ヒンズー教の遊行僧によって建立された、建築のデザインと、歴史的重要性に対する意識なしに建てられた十九世紀の建造物です。

アショカ王柱は釈尊御生誕の地を既に立証しましたが、マヤ堂の歴史と建築のデザインとは、LDTと全日本仏教会が昨年以来合同で行っている発掘調査を通じて再現されなければなりません。修復されるマヤ堂の建築様式がどんなものかについては、今までに見えられた考古学上の証拠で十分でありましょう。

ルンビニーについてのこれらすべての歴史的、考古学的情報を持つ全日本仏教会は、一

九九二年八月三十日LDTとの間でサインした協定に従ってマヤ堂の修復計画を実施することによって、釈尊の御生誕の場所と場面の比類なき純粹さ、栄光、そして神聖を復興することに必ず成功するであります。

今日、冷戦の危機は去りましたが、世界の各地では依然として民族および人種間の戦争が人々を苦しめています。さらに悪いことは、人間の成長の欠如、四海同胞の意識の欠如、そして二千五百年も前に釈尊が説いたところの、和合に基づく協力と、同情の欠如であります。

時宣を得た修正を伴いながら、丹下教授のマスタープランによるルンビニーの開発は、相互協力、同情、友情を通じて世界の平和と繁栄と発展を維持するための灯台となることでしょう。

ネパール王国政府は、ルンビニー開発計画の僧院その他の事業をとりあげて欲しいというLDTの呼びかけが、世界的な反響を生んだことに勇気づけられて、一九八七年のルンビニー開発法令の二度目の修正をしました。

この修正は釈尊の故郷のカピラバスツ、釈尊の母方の国であるデーバ・ダハ、そして釈尊の生涯に関係ある歴史的、考古学的な関心と重要性を持つ他のすべての場所を開発する責任をLDTに持たせるものであります。

全日本仏教会がマヤ堂修復事業計画を率先して実施されていることに対して、私たちは心から感謝しております。

また、私たちが全日本仏教会のすべてのメンバーと知り合う機会を持ち、マヤ堂修復の問題点を協議できるようにとのご配慮から私たちを日本へ招待いただいたことに対して全日本仏教会にお礼申し上げます。

最後に全日本仏教会のこれまでルンビニー開発に対して示されたご協力と、全日本仏教会の故国、日本に私たちを招待下されたことに対し、衷心より重ねて御礼申し上げ、私の話とさせていただきます。

御静聴有り難うございました。

## 扇子

中村康隆会長  
(浄土門主猊下)

ご染筆

箱入 2,000円

# 第二回 同和推進担当者連絡会開催

本会の第二回「同和推進担当者連絡会」が、去る一月三十一日午前十時から、真宗大谷派宗務所会議室で開催された。

本会における「同和问题・人権問題」に関する取り組みは、同和委員会を中心に推進されているが、「同和推進担当者連絡会」は、仏教界の諸課題について、加盟宗派の担当者による詳細な情報交換を目的とする連絡会である。

今回の連絡会で協議された事項は、①身元調査、②差別戒法名、③啓発方法について、④宗派内の組織作りについて、⑤教学面の研究について、⑥宗派内の差別事象の取り組み方について、⑦糾弾について、⑧臓器移植等の人権問題について、⑨エセ同和について、等であった。

当日は、二十六宗派三十五名の参加者が、活発な意見交換を行った。

## 『事務局録事』

一月一

十日 局内会議

十一～十四日 ネパール現地調査

十三日 法律相談室

十四日 埼玉県佛教会新年会出席

十七日 局内会議

二十日 信教の自由に関する委員会

二十一日 自民党大会出席

局内会議

二十四日 ルンビニー委員会

二十五日 LDT専門家会議予備会議

二十六日 理事・評議員会、新年懇親会

二十七日 日宗連理事會

法律相談室

二十八日 同和委員会

三十一日 同和推進担当者連絡会

二月一

一日 局内会議

八日 局内会議

十日 法律相談室

十四日 包括宗教法人等管理者研究協議会

出席

十六日 岡山県仏教会役員総会出席

十八日 局内会議

二十四日 法律相談室

二十四～二十八日 LDT専門家会議

### 哀 悼

清原 實明

一月十日、八十一歳で遷化

融通念仏宗管長

北角 圓澄（元全仏同和委員会委員長）

一月二十一日、六十五歳で遷化

元天台宗社会部長

天台宗議會議員

辻村 恂善（元全仏評議員）

一月二十八日、六十八歳で遷化

元時宗宗務長

### 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表 (3841) 4965

一九九四年三月一日発行

発行人 旗本宏昌 発行所 財団法人 全日本仏教会

〒一〇五 東京都港区芝公園四一七一四